

# 廃棄果実に集まる獣類

## 果樹試験場

### [研究のねらい]

和歌山県では、農作物に毎年約 3 億円の鳥獣害が発生し、その大部分が果樹の被害です。主な対策として柵の設置や捕獲などが行われていますが、なかなか被害は減ってきません。そこで、それら対策の効果を打ち消す原因の一つと考えられる、廃棄された果実が、野生獣類を餌付けしてしまっている実態を明らかにするため、カンキツ生産地域で調査を実施しました。

### [研究の成果]

- ① 調査地では、3～6月に廃棄果実を食べるため、イノシシ 1,121 頭(図 1)、サル 56 頭、タヌキ 6 頭が出没した。※赤外線センサーカメラで撮影されたのべ頭数
- ② イノシシは夜間に出没し、サルは日中に出没した(図 2)。
- ③ イノシシは果実が腐って液体状になっても、食べ続けていた。
- ④ イノシシは果実の廃棄が止まっても、3日に1回以上出没し続けた。

### [成果の活用面・留意点]

農作物は野生獣類にとって自然のエサより美味しいため、一度でも食べさせると農地に執着するといわれています。また、農作物は栄養価が高いため、食べると繁殖率が上がります。そのため以下の点に留意する必要があります。

- ・ 山林内や河川敷きなどに、たとえ腐っていても果実等の農作物や生ゴミは絶対に廃棄しない。
- ・ 園地内に果実を堆積する場合は、少なくともイノシシの餌付けにならないよう柵等で確実に囲う。



図 1 廃棄果実に群がるイノシシ

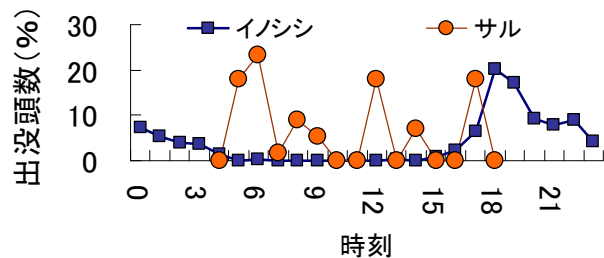


図 2 イノシシとサルの出没時刻

(問い合わせ先 TEL:0737-52-4320)